

新型コロナワクチンを打ってもらうときの説明のための書類

- 必要なとき以外、このワクチンは、基本的に40歳以上の人に対して使います。
- ただし、他の新型コロナワクチンに含まれる成分に対してアレルギーがあって打つことができないなど、特にアストラゼネカ社のワクチンを打ってほしい人は、特別に18歳以上40歳未満（より小さい）でも打ってもらうことができます。
- 外国で、めずらしいことではありますが、血小板減少症がある血栓症、毛細血管漏出症候群、ギラン・バレー症候群などの脱髄疾患が起きることがレポートされています。ワクチンを打ってもらうときには、リスクと効果をよく知って、納得したあとでワクチンを打ってもらってください。

新型コロナワクチンを打ってもらうことについて

国と、市、町、村がする新型コロナウイルス（SARS-CoV-2 といいます）のためのワクチンを打つ仕事をしています。お金は全部国などがはらいますので、ワクチンを打ってほしい人はみんなだ（0円）でワクチンを打ってもらうことができます。

ワクチンが効くかどうかと、ワクチンを打つ方法

今回打つワクチンはアストラゼネカという会社がつくったワクチンです。このワクチンを打ったら、新型コロナウイルスが原因で起こる病気（新型コロナウイルス感染症）にかからなくなります。

ワクチンを打ってもらった人と打ってもらっていない人を比べると、打ってもらった人の方が、新型コロナウイルス感染症にかかる人がすくないことがわかっています（臨床試験（新しいワクチンを人にためすこと）を通して、約70%などの新型コロナウイルス感染症の症状が出ることを防ぐ効果があったことがわかっています）。

| | |
|---------------------------|--|
| ワクチンの名前 | バキスゼブリア [®] 筋注 |
| 何にききますか？ | SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）感染症にかからなくなる |
| ワクチンを打つ回数・ ワクチンを打つ間の期間 | 2回（普通、1回目と2回目の間を4～12週間あけます） ※ワクチンは筋肉に打ちます |
| ワクチンを打ってもらうことができる人 | 基本的に40歳以上の人 |
| ワクチンの量 | 1回 0.5 mL で合計 2回打ちます |

- 薬事承認では、1回目にワクチンを打ってもらった後、普通、4～12週間あけて、2回目のワクチンを打つことになっています。ただし、いちばんよい効果を得るためには、8週間以上あけて打ってもらうことが良いとされています。また、12週間以上間があいたときは、できるだけやく2回目のワクチンを打ってもらってください。
- 1回目にこの（アストラゼネカという会社がつくった）ワクチンを打ってもらった人は、2回目も必ずこのワクチンを打ってもらってください。
- このワクチンを打ってもらったあとで、体の中で十分な免疫（病気にかからなくなるしくみ）ができるのは、2回目のワクチンを打ってもらってから15日ぐらいたってからだということです。ワクチンを打ってもらったら、確実に新型コロナウイルス感染症にかからなくなるかどうかはわかっていません。ですから、ワクチンを打ってもらったあとも、マスクをするとか、他の人と距離をとるとか、今までと同じように、新型コロナウイルス感染症にかからないように気をつけてください。

ワクチンを打ってもらうことができない人

つぎの1～6の人はこのワクチンを打ってもらうことができません。1～6にあてはまるかもしれないと思う人は、ワクチンを打ってもらう前にお医者さんにみてもらい、1～6にあてはまるかもしれないということをかみならず、お医者さんに言ってください。

1. まちがいなく熱がある人（※1をみてください）
2. 重い急な病気にかかっている人
3. このワクチンに入っているものに強く反応する症状（過敏症といいます）（※2をみてください）がでたことがある人
4. 新型コロナウイルスワクチンを打ってもらった後に、血小板減少症と同時に静脈もしくは動脈の血栓症を起こしたことがある人
5. 毛細血管漏出症候群にかかったことがある人
6. 1～5以外の理由で、ワクチンを打ってもらってはいけないう状態の人

（※1）まちがいなく熱があるというのは、普通37.5℃以上のことです。しかし、体温が37.5℃より低くても、いつもの体温と比べて、熱があると考えるばあもあります。

（※2）過敏症というのは次のようなものです。アナフィラキシーや、体中の皮膚や粘膜に症状が出る、息をするときに「ゼーゼー」といった音が聞こえる、息が苦しくなる、脈がはやくなる、血圧が下がるなどアナフィラキシーかもしれないという症状があるばあ

ワクチンを打ってもらうときに注意した方がいい人

次の1～6の人はこのワクチンを打ってもらうときに、注意したほうがいいです。1～6にあてはまるかもしれないと思う人は、ワクチンを打ってもらう前にお医者さんにみってもらうときに、かみならず、1～6にあてはまるかもしれないということをお医者さんに言ってください。

1. 血が固まらないようにする治療を受けている人、血液の中の血小板が少なくなる病気（血小板減少症）にかかっている人や血が固まりにくい症状がある人
2. 免疫（病気にかからなくなるしくみ）がうまく働かない状態（免疫不全）になったことがある人、親や兄弟など近い関係の人（近親者）に、生まれたときから免疫不全になっている病気（先天性免疫不全症）の人がいる人
3. 心臓、腎臓、肝臓、血液の病気や、体が十分に大きくならないなどの元々の病気（基礎疾患）がある人
4. これまでにワクチンを打ってもらったあと、2日以内に、熱がでたり体中にできものがでたりするなど、アレルギーかもしれない症状がでたことがある人
5. これまでに、急に手や足がつっぱったり、体が動かなくなったりしたこと（「けいれん」といいます）がある人
6. このワクチンに入っているものにアレルギーがおこるかもしれない人

赤ちゃんがおなかにいる（妊娠中）か、妊娠しているかもしれない人、赤ちゃんにあなたの母乳をあげている人は、ワクチンを打ってもらう前にお医者さんにみってもらうときに、かみならず、お医者さんにそのことを言ってください。

このワクチンには、これまでのワクチンでは使ったことがないものが入っています。これまでに、薬で過敏症やアレルギーになったことがある人は、ワクチンを打ってもらう前にお医者さんにみってもらうときに、かみならず、お医者さんにそのことを言ってください。

ワクチンを打ってもらったあとに注意すること

このワクチンを打ってもらったあとは、次の1～3をまもってください。

- このワクチンを打ってもらったあとは、15分以上（これまでに、ワクチンを打ってもらったときに、アナフィラキシーなどの重いアレルギーになったことがある人や、気分がわるくなったり、気を失ったりしたことがある人は30分以上）、ワクチンを打ってもらった施設で待ってください。もし、体の調子がわるくなったら、すぐにお医者さんに言ってください。（急におこるワクチンのわるい影響（副反応）といいます）に対応することができます。
- ワクチンの注射をしたところはきれいにしてください。ワクチンを打ってもらった日にお風呂にはいってもいいですが、ワクチンを注射してもらったところをこすらないでください。
- ワクチンを打ってもらった日は、はげしい運動をしたり、たくさんお酒を飲んだりしないでください。

ワクチンを打ってもらったことによるわるい影響（副反応）について

- このワクチンを打ってもらったときにおこる主な副反応は次のようなものです。注射をしたところがいたくなる、頭がいたくなる、関節や筋肉がいたくなる、つかれる、寒いと感じる、熱がでるなどです。とてもすくなくないですが、とてもひどい副反応にショックやアナフィラキシーがあります。このワクチンは、新しくつくったワクチンなので、まだわかっていない副反応が出るかもしれません。ワクチンを打ってもらったあとで、なにか症状がでたときは、いつもみてもらっているお医者さんに相談してください。
- 報告はともすくなくないですが、ワクチンを打ってもらった後に血小板減少症と同時に起こることがある血栓症（※1をみてください）、毛細血管漏出症候群（※2をみてください）、ギラン・バレー症候群などの脱髄疾患（※3をみてください）が起こったことが、外国でレポートされています。ワクチンを打ってもらった後に次のような症状がでたら、すぐに病院でみてもらってください。
(※1) ひどい頭の痛みが長く続く、目のかすみ、息切れ、錯乱、けいれん、胸の痛み、足のむくみや痛み、おなかの痛みが長く続く、ワクチンを打ってもらった場所ではないところの内出血（あざ）などの症状。なお、これらの症状のほとんどはワクチンを打ってもらった後、28日以内に起こることが多く、また、2回目に打ってもらった後よりも1回目の後に起こることが多いです。
(※2) 手や足のむくみ、低血圧などの症状。
(※3) 手や足の力が入り、手や足がしびれる、尿や便がでにくい、目がかすむなどの症状。

ワクチンを打ってもらったことでおこった健康に関係のある問題を助ける制度（予防接種健康被害救済制度）について

ワクチンを打ってもらったときに健康被害（病気になったり、体に障害が残ったりすること）がおこることがあります。こうした被害はともすくなくないですが、こうした被害をなくすことはできないので、被害をうけた人を助ける制度があります。

新型コロナワクチンを打ってもらったことで健康被害を受けた場合も、こうした救済制度を使うことができます（これは、予防接種法という法律で決まっています）。たとえば、病院などでかかるお金（医療費）や障害がある人がもらうことができる年金（障害者年金）をもらうことができます。こうしたお金をもらうためには、健康被害を受けたことを役所に教えなければなりません。このことについて詳しいことは、あなたの住民票がある場所の市、町、村の役所に聞いてください。

新型コロナウイルスによる病気（新型コロナウイルス感染症）について

新型コロナウイルス感染症は、SARS-CoV-2 というウイルスが原因でおこります。この病気になるると、熱やせきができるなど、かぜによく似た症状がでます。症状が軽いつきに治る人も多いですが、症状が重くなると、呼吸が苦しくなるなど肺炎の症状がひどくなって、死ぬこともあります。

これから打つ新型コロナウイルスワクチン（アストラゼネカという会社のワクチン）はどんなワクチンですか？

このワクチンは、ウイルスベクターワクチンです。SARS-CoV-2 というウイルスのスパイクタンパク質（ウイルスがヒトの細胞に入るために必要なタンパク質）をつくるための設計図になる遺伝子をサルアデノウイルス（かぜウイルスであるアデノウイルスに、ふえることができないように処理されています。）に、くみこんだワクチンです。このワクチンを打つと、遺伝子があなたの細胞の中に入り、この遺伝子を使って細胞の中でスパイクタンパク質ができます。そして、そのスパイクタンパク質の働きを中和する抗体ができ、免疫を作るように命令がでて（細胞性免疫応答が働いて）、SARS-CoV-2 による感染症にかからないようになると考えられています。

このワクチンには、次のものが入っています。

| | |
|---------|--|
| 効果があるもの | ◇ トジナメラン （ヒトコロナウイルス（SARS-CoV-2）ワクチン（遺伝子組換えサルアデノウイルスベクター） |
| 足したもの | ◇ L-ヒスチジン ◇ L-ヒスチジン塩酸塩水和物 ◇ 塩化ナトリウム ◇ リン塩化マグネシウム ◇ エデト酸水素ナトリウム二水和物 ◇ 精製白糖 ◇ 無水エタノール ◇ ポリソルベート80 |